News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
発行責任者：校長　櫻井郁男
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２５年５月１１日　　No. ３

桜プロジェクトへのお礼

その年の５月、地震と津波に被災した私のルーツを訪ねてきました。

父は奥松島の宮戸島に生を受け、国民学校（６年間の義務教育）を卒業すると「商船会社」に就職しました。見習いコックだったと母から聞いています。日中戦争前夜に輸送船は揚子江で爆撃を受け、右手の3指を失いました。生家は半農半漁、末っ子として生まれ「甥」と同じ歳の父は実家にとどまることはできず上京、働かせてくれ、学校にも行かせてくれる会社に、給仕として就職しました。そこは大田区の町工場、ブロックゲージなるものでは当時トップメーカーであったと聞きます。

会社は東京大空襲で焼け、父は多摩川(六郷)に逃げ一命を取り留めました。食料の買い出しに行った農家(上司の実家)の次女と結婚し、姉と私がこの世に生まれました。

松島について、私の記憶は小学6年の夏から始まります。床に新聞を敷き、ボストンバッグに座り、「上野からの夜行列車」は「こおりやま（氷の山と思った）」を経て、早朝「しぇんだい」につきました。

野蒜（のびる）海岸と宮戸島は橋により陸続きとなっており、「本家」では五右衛門風呂に入り、たくさんの従兄弟(実は従兄弟の子供たち)と「はまぐり浜」で泳ぎ、和船を漕いで島を巡りました。

その後、野々島、桂島の叔父・叔母を訪ね、海苔の養殖について教えてもらい「夏休みの自由研究」としました。***ふたつの島は津波で全てを流され、コンクーリトの基礎だけが、家があったことを示していました。***



野蒜海岸のリゾート施設

この旅行の目的はふたつあったそうです。ひとつは「揚子江で指を失った」との証明をもらい、戦傷者とまではいえないまでも、なにがしかの経済的援助が欲しかったそうです。(結局、証明してくれる人が見つからず、身障者手帳だけは持っていました)

もうひとつは、貧しいながらも多少の蓄えがあったのでしょう。ほぼ自給自足の生活で、現金収入がない親戚に、海苔・牡蠣の養殖事業を興す資金を用立てたとのことでした。

私にとっての本家との付き合いはそれから10年ほどありませんでしたが、私が食品会社の仙台営業所に勤務したことは、父にとって「故郷に錦を飾った」と思ったはずです。

仙台勤務時代、私の営業担当地区は「浜通り（海岸線沿いの豊かな地域）」であり、北は大船渡、南は相馬・原町までででした。今回の被災地は地名を聞くたびに、お得意さんとの商談を超えたお付き合いや、澄み切った海と海岸線を飾る松林が脳裏によみがえります。

今回の桜プロジェクトは、私が頻繁にお邪魔した地区での企画であり、かつ本家の当主も関わりがある方々との交流です。奇遇を驚くとともに衷心より感謝申し上げます。

戸惑いつつ訪れた気仙沼市街地は壊滅状態、観光桟橋・お魚市場・マグロ漁船が停泊し壮観だった、漁港と港を取り巻く多くの工場・商店・加工場は跡形もなく崩れ、焼け跡になっていました。***気仙沼海岸で最も大きかった子会社のビルと冷凍庫も改築不可能の状態でした。***

漁船用の燃料タンクが倒壊し、漏れ出した重油に引火したとのこと、漂流を免れた船舶は船縁が黒く焼け焦げ、甲板から上は無傷の状態でした。



大船渡・雄勝・女川・歌津・志津川・石巻・塩竈・・・***そして気にかけつつも行くことができない相馬・原の町・・・***

原子力利用の是非について発言する立場ではありませんが、理科を担当していた時期には「自然と人間」の単元で産業革命以後の「爆発的人口増」と「食糧生産増」「エネルギー増」さらに40年以上前から語られていた「地球温暖化」をとりあげ、考えを発表させていたことを思い出します。

その頃の生徒は今、働き盛りの年代です。

日本のあり方について意思決定し、歩みの先頭に立つ皆様と本校生徒はどのような選択をなさるのでしょうか。

・・・お知らせ・・・

本年度より学習時間の有効活用を主な目的として、配布文書の精査と削減に務めております。その一環として（Big Apple）はホームページにて、ご覧下さいますようお願い申し上げます。

経費削減と省資源についてもご理解下さい。